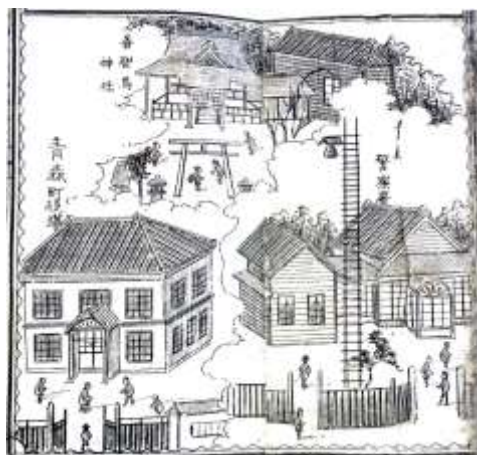


みなさん、明けましておめでとうございます。室長の工藤です。

1月4日から市役所の窓口部門である駅前庁舎の全面供用が始まりました。そこで、これを機会に私の担当回を利用して、これまでの庁舎にまつわるエピソードを少しずつご紹介していこうと思います。今回は初代の青森町役場です。

明治22年（1889）4月1日、市制・町村制が施行されます。このとき県内では弘前のみが市制を布き、青森は鱒ヶ沢・黒石・八戸・三戸とともに「町」でスタートしました。こうして誕生した青森町では、5月1日に町会議員の選挙が実施され、24人が当選しました。そして、5月20日に町会（議会）が開かれ、ここで初代町長となる柿崎忠兵衛が選任され、町長を補佐する助役・成田徳之進も6月26日に認可されました。また、一部の役場職員の選挙も6月6日に実施されました。こうして、明治22年5月～6月にかけて、青森町の組織が整備されていきました。

さて、町役場は善知鳥神社の境内に設置されました。写真は残っていませんが、明治25年に発行された「青森実地明細絵図」に二階建ての町役場が描かれています。ただし、この建物は町制施行に併せて新築されたものではなく、町制施行以前の制度下にあった戸長役場を使ったといわれています。そして、6月28日に町役場に町会議員を集め、「開場式」を行い、青森町は本格的にスタートすることになりました。



善知鳥神社境内にあった青森町役場（『青森市史』第5巻付図「青森実地明細絵図」より）

それから約3年5か月を経た明治25年12月4日、町役場は新浜町に新築移転します。移転の理由を記した当時の記録を見つけることはできませんでしたが、『青森市議会史』明治編では前年に上野—青森間の鉄道が開通したことで急激に人口が増え、それに伴い町が扱う事務量も増え役場が手狭になったといえます。

ところが、善知鳥神社境内の旧役場の建物そのものはその後も残り、明治28年2月に入札によって払い下げられ、4月に解体となりました。つまり、役場移転後も2年以上もそのままにしていたのです。この間旧役場建物はどうなっていたのでしょうか。

手がかりをひとつご紹介しますと、旧役場を当時青森高等小学校（現浦町小学校）を併設していた青森新町尋常小学校（現長島小学校）の分教場として使おうとしていた節があります。明治25年12月時点では、分教場で教える教員がないということで実現はしていませんが、もう少し追いかけてみると新しい発見があるかもしれません。